JAPAN PLATFORM

SUMMARY REPORT：PHILIPPINES TYPHOON KETSANA RELIEF PROGRAM

ジャパン・プラットフォーム
フィリピン水害被災者支援報告書

MARCH 2010

JAPAN PLATFORM

目　次
CONTENTS

目次／団体名称一覧 …… 2

謝辞／支援概要 …… 3

フィリピン水害被災者支援の流れ …… 4

実施事業紹介 …… 5

評価と提言 …… 7

市民社会との連携 …… 8

支援企業・団体からのメッセージ …… 9

フィリピン水害被災者支援　支援者一覧 …… 10

事業一覧と収支報告 …… 11

JPF の機能と活動実績 …… 12

運営支援者一覧 …… 13

Flow for Philippines Typhoon Ketsana Relief Program …… 14

Introduction to Projects Conducted …… 15

団体名称一覧

AAR	:	特定非営利活動法人 難民を助ける会
ADRA	:	特定非営利活動法人 ADRA Japan
CF	:	公益社団法人 CIVIC FORCE
HuMA	:	特定非営利活動法人 災害人道医療支援会
ICA	:	特定非営利活動法人 ICA 文化事業協会
JAFS	:	社団法人 アジア協会アジア友の会
KnK	:	特定非営利活動法人 国境なき子どもたち

表紙写真（上から）：©KnK、©JPF、©ADRA、©KnK、©JAFS、©JPF

謝　辞

2009 年 9 月 26 日、大型の台風 16 号「ケッツァーナ」がフィリピンに上陸し、マニラ首都圏を中心に大規模な洪水が発生しました。その後も台風 17 号、18 号の上陸が追い打ちをかけ、多くの方が家屋を失い、フィリピン全土での被災者数が 490 万人を超える大災害となりました。

ジャパン・プラットフォーム（JPF）では、2009 年 9 月 29 日に出動を決定し、企業や個人の皆様から寄せられた寄付金・ご協力及び政府支援金により、8 団体による 14 の支援事業を実施いたしました。皆様からのご支援のお陰で、発災直後及び長引く浸水状態に対応した緊急物資配布や緊急医療支援、障がい者や子どもを含めた社会的弱者へのケア、また、今後の災害対策への支援など、事業実施団体の得意分野を活かした多様な支援を行うことができました。

ご支援をお寄せくださった皆様に、被災者の方々、現地で活動を行いました NGO に代わり、衷心より御礼申し上げます。活動の内容は、当報告書にてご報告させていただきます。忌憚のないご意見、ご指導を賜れましたら幸いに存じます。

ジャパン・プラットフォームでは、自然災害や紛争による被災者のために、より良い支援を目指し、これからも尽力して参る所存です。今後ともご支援、ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

2010年3月吉日

特定非営利活動法人（認定NPO法人）

ジャパン・プラットフォーム

代表理事　長　有紀枝

支援概要

PROGRAM SUMMARY

事業期間	:	2009 年 10 月～ 2010 年 4 月（予定）
資金規模	:	1.06 億円余
総事業数	:	14 事業（モニタリング事業含む）
活動団体数	:	8 団体
支援件数	:	120 件（企業・団体・個人）
Term	:	Oct 2009 ～ Apr 2010（to be completed）
Fund	:	¥106mil
Number of Projects	:	14（including Monitoring）
Number of NGOs	:	8
Number of Cooperations	:	120（Corporations, Organizations, Individuals）

必要とされる支援を、必要な時に、必要な人々へ届けました。

死　者	：	464人
行方不明者	：	37人
負傷者	：	529人
被災者	：	4,901,234人

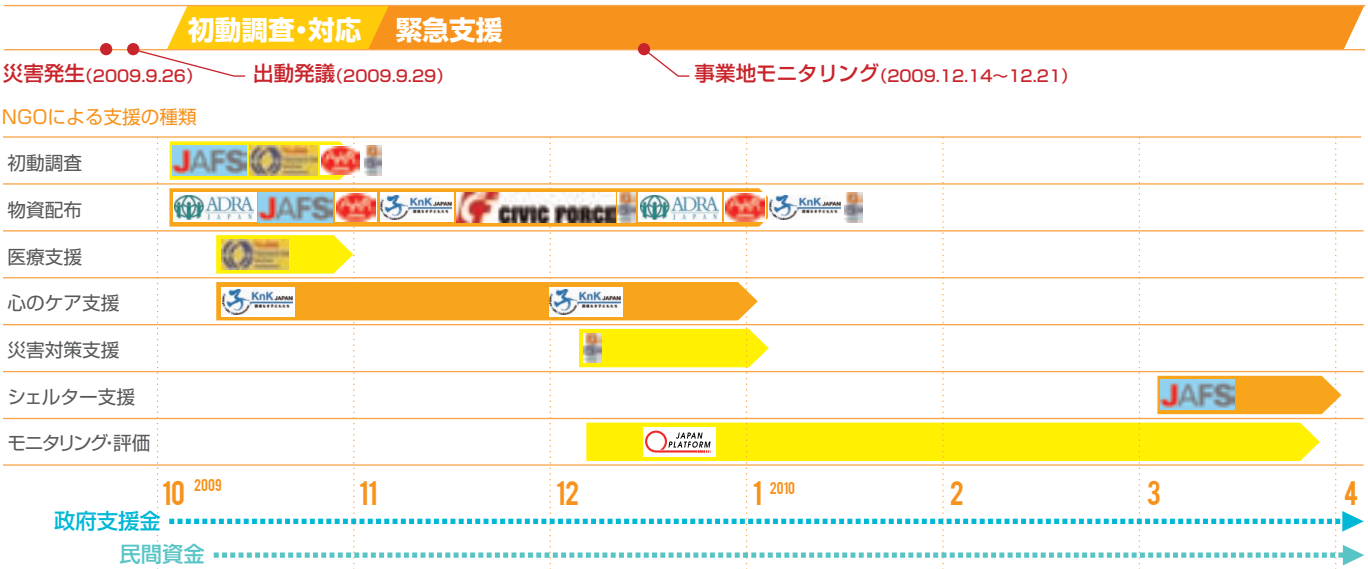
出所：フィリピン政府・国家災害調整委員会（National Disaster Coordinating Council、NDCC）（2009年11月12日）

通過日	：	2009年 9月 26日
最大降雨量	：	410mm/24hrs
最大瞬間風速	：	35m/s

出所：ロイター通信（2009年9月27日）
気象庁（2009年12月21日）

1．初動調査・対応
2009年10月3日～
34,653,774円

2．緊急支援
2009年11月3日～
69,864,524円



※JPF事業終了後も、自己資金や他助成金により現地での事業を継続予定。
※NGOのロゴマークは各支援の種類における事業開始時期を表示。なお、1つの事業に複数種類の支援が含まれる場合があります。

初動調査・対応
避難所となった小学校で地域住民の診療を行うHuMAスタッフ
©HuMA

緊急支援
食糧や寝具などの生活支援物資を受け取り、水没した道をボートで帰っていく家族
©JPF

各NGOの強みを活かした支援を実施しました。

特定非営利活動法人 ADRA Japan（ADRA）

http://www.adrajpn.org/

会田　有紀

フィリピン水害被災者支援事業
プログラムオフィサー

現地の人々と共に実現した迅速な支援

被災直後に日本人職員を派遣し、被害が甚大であるにもかかわらず国際支援の届いていないラグナ州にて、生活物資の中でも特に必要とされている食料（米、魚缶、豆、ミルクなど）と寝具（毛布、マットレス、蚊帳）を 2 万人の被災者に配布しました。

支援物資を受け取った人たちはこう語ります。「台風で壁も屋根も壊れてしまい、子どもも水に落ちそうになりました。あの夜は心配のあまり眠れませんでした。ADRA から配給券をもらったとき、嬉しくて涙が出てしまいました」「充分な量の食料をくれたのは ADRA だけです。本当にありがとう」。

また、「援助を受けるだけでなく、自分も何か貢献したい」と現地の学生 100 人がボランティアで事業に参加しました。「自分たちが配った蚊帳を使い、マットの上で安心して眠っている家族を見て、ADRA の事業を手伝えてよかったと思いました」と、感謝と感動の言葉を伝えてくれました。

JPF の援助により、現地の自助努力を損なうことなく、迅速な支援が行えたことを感謝致します。

感謝の言葉

「来てくれてどうもありがとう。日本のみなさんに私たちの感謝をぜひ伝えてください」。避難所で生活する被災者、水没した自宅の屋根上で生活する被災者、そして現地の学生ボランティアから、毎日、熱い握手と感謝の言葉で迎えられたことを、ここに報告致します。私たちが目指す「人間としての尊厳の回復と維持」のための活動を無事に遂行することができたのは、すべてご支援くださった皆様のおかげです。心から感謝申し上げます。

配布を心待ちにする水害被災者たち
©ADRA

支援物資を配布する日本人スタッフ
©ADRA

公益社団法人 CIVIC FORCE（CF）

http://civic-force.org/

久保山　洋一

事業部
フィリピン事業現地担当

被災者に驚かれた支援物資の量と質

被災から 2 週間が経過したマニラ首都圏のケソン市内に、約 1 ヶ月間滞在しながら、支援事業を実施しました。

現地のパートナー団体である CDRC（Citizens' Disaster Response Center）の協力を得て、マニラ首都圏を中心とした合計 5 ヶ所の地域へ支援物資を届けました。具体的には、生活物資や食料を詰め合わせたリリーフパック（救援袋）1,180 セットの配給とエマージェンシーテント（緊急避難用テント）100 張りの配布を行いました。

今まで他の援助団体などからの支援があまりなかった地域や、地理的に支援の行き届かない地域を選定して配給を行ったこともあり、被災者の方々からは予想以上に多い支援物資の量とその質の高さに、「今本当に必要なものがそろっている。しかもこれほど十分な量を･･･」など、驚きの声が多く上がっておりました。これらは JPF の助成がなければなし得なかったことです。

また、水害による土砂崩れによって家屋を完全に失ってしまい、慢性的な避難所不足に悩まされていた山間の地域にも、日本での備蓄品であるエマージェンシーテントを活用させていただくことができました。

感謝の言葉

台風被害というのは、日本人にもまったく無縁ではなく、今回のあまりにひどい被災状況には恐怖を覚えました。皆様のご支援を確実に被災地の方々へ届けられるよう、精一杯の活動をさせていただきました。引き続き現地では、パートナー団体である CDRC による支援活動が展開されております。皆様のご支援には、心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

7000人分のリリーフパックを配給
©CF

100張りのエマージェンシーテントを配布
©CF

特定非営利活動法人 災害人道医療支援会（HuMA）
http://www.huma.or.jp/

林（りん）　晴実
看護師

子どもたちの笑顔に癒された医療支援活動

2009年10月、マニラ首都圏保健局と共に、首都圏内および周辺の避難所で医療支援活動を実施しました。被災後 2 週間経っても、市内の水はいっこうに引く気配がなく、人々の生活環境や衛生状態は極めて劣悪な状態になっていました。

避難所にいる被災者を診療してみると、急性上気道炎、水系感染症、皮膚疾患、脱水症などに罹っている人が多く、ワクチン接種や亜鉛の投与に加え、皮膚感染症に対する処置および膿瘍などに対する切開排膿などを含めた小外科手術も行いました。レプトスピラ症（※）の蔓延も懸念されたため、予防投薬を推進して参りました。

これらの医療支援活動を通じて、被災者の方々から多くの感謝の言葉をいただき、改めて本事業の大切さを実感致しました。また、多くの子どもたちの笑顔に接することができ、支援を届ける側の医師や看護師が逆に癒されることもたくさんありました。

（※）ドブネズミなど保菌動物の尿で汚染された水や土壌から、皮膚や口を通じて感染する人と動物の共通感染症。風邪に似た初期症状で治る場合もあるが、肝障害や腎障害などの重症につながる危険性もある。

感謝の言葉

今回の医療支援活動は、JPFに寄せられた政府支援金および民間資金をはじめ、皆様からいただいた多くのあたたかいご支援により実施することができました。おかげ様で多くの避難所において、医師、看護師による被災者の診療を実施することができました。皆様のご支援に心より感謝を申し上げます。今後もJPFと連携を取りながら、医療支援事業を推進して参りたいと思いますので、引続きのご支援、ご協力を宜しくお願い申し上げます。

パシグ市の避難所で診療を行う医師たち
©HuMA

たくさんの子どもたちの笑顔に癒されました
©HuMA

特定非営利活動法人 国境なき子どもたち（KnK）
http://www.knk.or.jp/

足立　まどか
プロジェクト･コーディネーター
フィリピン水害被災者支援事業担当

台風被害のショックを和らげた心理社会的ケア

アジア最大規模のスラムであるバゴンシーラン地区（カロオカン市）で、被災家庭 356 世帯に食糧や生活用品を配布し、被災した子どもや乳児を持つ母親など計 70 名を避難施設に保護しました。また、1,113 名の被災児に制服や学用品など、復学のための物資を配布しました。

従来から貧困が著しい支援対象地では、被災で生活基盤一切を失うなど人々の生活に深刻なダメージが出ていました。しかし、今回の支援事業を通じて「子どもが安全に生活する場所があることは親にとって大きな心の支えだった」「集中して再建に取り組むことができた」との声が保護者や行政当局から多く寄せられました。

また、台風被害のショックを和らげるための心理社会的ケアを被災児 150名に実施しました。被災体験を共有しながら、仲間と一緒に楽しんだり、心の内を打ち明け合ったりするなど、心に傷を負った子どもたちにとって貴重な機会となったようです。日を追うごとに笑顔が増えていく様子は、私たちスタッフにとっても大きな励みとなり、現地のスタッフやボランティアも昼夜を問わず働いてくれました。

感謝の言葉

「仕事も家もすべて失った私たちに手を差し伸べてくれてありがとう」「被災後は途方に暮れていたが、日本からの援助を機に、再建に向けて奮起することができた」というスラムの人々からの感謝の言葉を、ご支援くださった皆様にお伝えしたいと思います。皆様のご厚意を無駄にしないよう、また、今回の災害が子どもたちの状況を一層過酷なものにしないよう、今後も支援対象地での活動を継続していきます。皆様のご支援に心より感謝申し上げます。

施設に避難している子どもたちへの心理社会的ケアの様子
©KnK

子どもたちに栄養のある食事を提供した
©KnK

今回の支援事業で得た教訓を、次へとつなげます。

モニタリング・評価概要

※敬称略

派遣者　：木場紗綾　フィリピン大学第三世界研究センター客員研究員
　　堀恒平　　JPF 事務局　事業部員
調査地　：マニラ首都圏（パシグ市、カロオカン市）、リサール州、
　　ラグナ州、パンパンガ州
調査期間：2009 年 12 月 14 日～ 12 月 21 日
調査内容：事業地視察（AAR、ADRA、CF、HuMA、ICA、JAFS、KnK）
　　情報交換等（在フィリピン日本大使館、
　　フィリピン保健省首都圏支局、ローカル・カウンターパート）
　　被災家庭訪問（約 50 世帯）

被災者の心のケアに取り組むソーシャルワーカーや臨床心理士へ聞き取り調査
©JPF

被災住民が入居する緊急避難用テントの使用状況を調査
©JPF

主な評価

迅速な支援の展開

国際社会が被害状況を過小に見積もる中、JPFは災害発生から72時間以内に支援を表明し、のべ87,000名に対する支援を実施した。JPFの支援体制とNGOの俊敏なフットワークが調和し、迅速な支援を展開できたことは、現地の被災状況の改善に大きく役立った。

NGOならではのきめ細やかさ

本事業では、被災直後の緊急を要する物資配布や医療支援に加え、障がい者に配慮した厚めのマットレスの配布や国際支援が届きにくい湖の孤島への支援など、現地のニーズや状況に合った支援が行われた。NGOの特性を活かしたきめ細かい支援が実現できたことは、高く評価できる。

現地リソースの活用

NGOの多くが、災害支援の経験が豊富な現地の行政機関・支援団体と協働することで、被災状況、支援ニーズを素早く把握し、効果的な支援へとつなげることができた。また、住民もボランティアで支援活動に参加するなど、現地の主体性が最大限に活かされた、住民参加の緊急支援を実現し得たと言える。

主な提言

広報活動の徹底

支援物資などにJPFのロゴが貼られていない場合があり、受益者の中にはJPFからの支援を認識していないだけでなく、現地の行政機関や政治家による支援だと誤解する者もいた。広報活動は支援活動に並ぶ重要な活動であり、その徹底が求められる。

国際スタッフの事業参画の促進

事業計画の策定や事業地・受益者の選定、また、事業の実施において、協働先のローカル・カウンターパートが大きな役割を果たしたことで、迅速な支援を可能にした反面、NGO側がカウンターパートに依存する傾向も見られた。NGOが自主性や中立性を保ち、公平な支援活動を展開する上でも、国際スタッフのより主体的な事業参画が望まれる。

JPFのプレゼンスの向上

NGOの主体性や広報活動の不足などにより、本事業におけるJPFのプレゼンスは決して高いとは言えなかった。ドナーへの説明責任を果たす意味でも、今後は支援活動がJPFのスキームの中で行われているということをNGO側は常に意識し、事業運営に反映していくことが期待される。

専門家の視点

中立性を保つカウンターパート選定の重要性

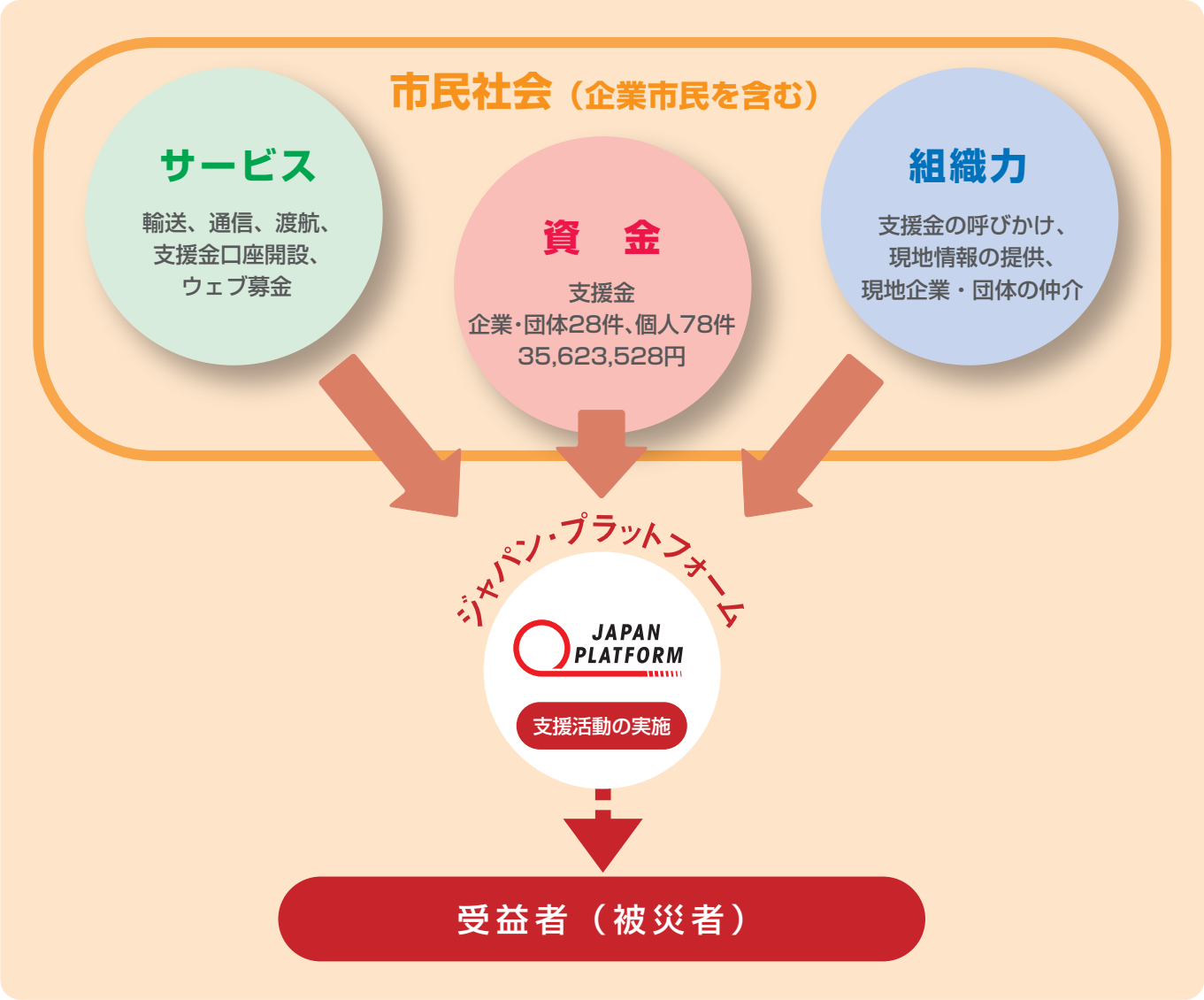
JPFがフィリピンに出動するのは初めてということもあり、事業実施NGOのうち３団体はフィリピンでの事業経験がなく、ローカル・カウンターパートの選定が事業に決定的な影響を与えた。現地には災害支援の経験豊かな行政機関や支援団体が多く存在し、彼らの情報とノウハウ、機動力を活用することで、支援を必要とする人々に対して効果的なアプローチが可能となった。

他方、フィリピンでは選挙職（選挙によって就任する役職）の裁量が大きく、特に地方自治体は必ずしも政治的に中立とは限らない。行政機関をカウンターパートとする場合は、受益者を取り巻く政治的環境や行政担当官の属性を事前によく調査し、支援対象者や地域に偏りが出ないよう、十分注意を払う必要がある。

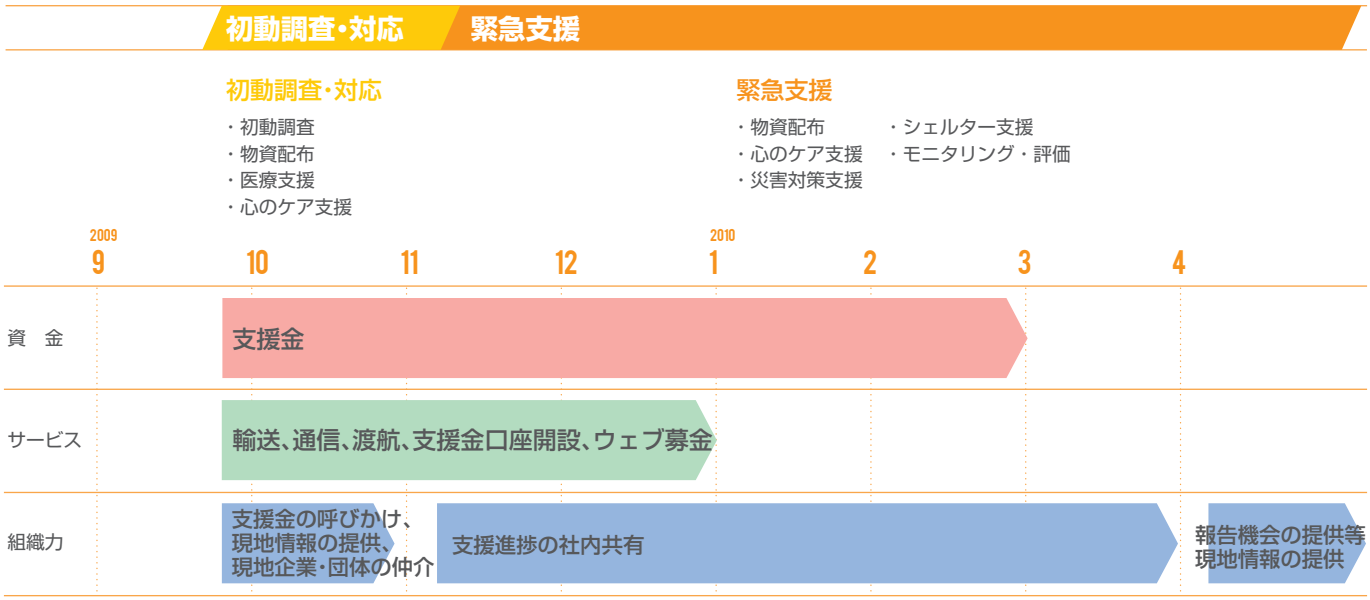
また、都市部の被災者の多くは非正規居住者であることから、代替地への移転や仮設住宅建設などの支援ニーズも高い。しかし現地の土地登記制度は複雑であり、こうした分野での支援においては、土地問題に関する十分な事前調査が必要になるものと推察される。

木場　紗綾 氏
フィリピン大学第三世界研究センター客員研究員
政治学博士（神戸大学）
元 在フィリピン日本大使館専門調査員
専門はフィリピン政治、住民運動

市民社会の持つ多様なリソースを活用した支援を実施しました。



2010年2月現在



オムロン株式会社 様

山本　正行 様

企業文化統括センタ
良き企業市民推進部
部長

日本の NGO が世界で活躍するために不可欠な JPF の機能

オムロングループは、社会貢献活動を実施するうえで最善の成果を得る手段として、NGO を含む関係組織との協働を積極的に推奨しています。当社の CSR は基本的なフレームワークとして経済、環境、社会に関する課題への取り組みを掲げていますが、大規模災害への支援はこれら 3 つの課題すべてに関係の深いものだと認識しています。

JPF への支援としては、その仕組みをサポートすることを重視し、2006 年度より賛助会員として、また、2007 年度からは正会員として、いずれも現在に至るまで継続的に支援を行ってきました。これに加えて、災害支援として今回のフィリピン水害とハイチ地震への支援も行っています。

世界中で発生する大規模災害の現場で日本の NGO が活躍するためには、JPF のような機能は不可欠であると考えます。NGO が迅速かつ大規模に展開するための土台（プラットフォーム）が、今後も発展することを期待しています。

日産自動車株式会社 様

本廣　好枝 様

グローバルブランドコミュニケーション・CSR部
CSR・社会貢献グループ
主管

日本国内での啓発活動や人材育成にも期待

日産自動車は、豊かな社会の実現のために、企業市民として様々な社会貢献活動に取り組んでいます。教育、環境、人道支援を重点活動分野として定め、国内外を問わず自然災害の被災地支援を実施してきました。

JPF への支援としては、2001 年に発生したインド西部地震から今回のフィリピン水害に至るまで、継続的に災害義援金を寄付しています。また当社では、将来の社会を支える若者たちへの投資として、10 年間にわたり、「日産 NPO ラーニング奨学金制度」を実施してまいりました。この間、4 名の奨学生を JPF の事務局に派遣し、NPO と企業との新しいパートナーシップの構築を試みたこともございます。

JPF はその活動目的として、「国際人道支援活動を通じて日本の市民社会のさらなる発展に寄与する」と定めていると理解しております。被災地における支援活動もさることながら、日本国内での人道支援に関わる啓発活動、また、救援活動に携わる人材の育成にも同様に注力していただければと期待しています。

今後も日本の市民セクターを代表して、日本全体の社会貢献活動の活性化に向けたリード役を担っていただければと思います。

パナソニックグループ労働組合連合会 様

空野　仁志 様

社会貢献活動基金運営委員会

支援者に対する JPF の細やかな配慮に感謝

パナソニックグループ労働組合連合会は、今回のフィリピン水害およびハイチ地震において被災地支援を行うことを決定し、基金からの拠出と募金による義援金を、JPF を含む複数の団体に寄付しました。

インターネットやマスコミ報道を通じて被災地の状況を知った組合員（従業員）の誰もが、被災者の皆さんに少しでも早く復興に向けた明るい希望を持って欲しいと感じ、その気持ちをカンパという形で被災地へ届けたいと思っています。

また、カンパを実施する側にとって、JPF から送られてくる被災地支援の「進捗報告」や被災地の画像データなどタイムリーな「情報提供」は、レポートやビラの作成にとても役立ち感謝しています。

こうした JPF による支援者への細やかな配慮も、支援をする側としては非常に助かる部分であり、今後もぜひ継続してほしいと思います。

企業・団体・個人の皆様から、合計120件のご支援を頂きました。皆様のご協力に、心より御礼申し上げます。

資金によるサポート

Ｆプロジェクト
オムロン
花王
花王ハートポケット倶楽部
カシオ計算機
新日鉱グループ
　新日鉱ホールディングス
　新日鉱ホールディングス　社員募金
　日鉱金属
　日鉱金属　社員募金
　ジャパンエナジー
　JOMO ふれあい基金
武田薬品工業
千葉海運産業
デンソー
東海理化電機
トヨタ自動車
豊田通商
トヨタ紡織
日産自動車
日本航空（ボランティア J）
野村グループ
パナソニック AVC ネットワークス労働組合
パナソニック労働組合連合会
ファイザー
三菱東京 UFJ 銀行
三菱東京 UFJ 銀行社会貢献基金
横浜山手聖公会 (Yokohama Christ Church)
※個人の皆様からのご寄付 78 件

サービスによるサポート

イーココロ！
「ウェブを通じたクリック募金紹介の協力」

エイアンドエフ
「バックパック、衣料品などスタッフの渡航に必要な携行品の提供」

AFP 通信
「ウェブを通じた情報発信の協力」

ギブワン
「募金プロジェクト立ち上げによる募金協力」

全日本空輸
「支援者渡航の協力と支援物資の空輸のお申し出」

ソフトバンクモバイル
「携帯電話の無償貸出（基本料金と通話料の免除）」

日本航空
「支援物資の空輸のお申し出と支援者渡航の協力」

日本郵船グループ
「支援物資の輸送のお申し出」

三菱東京ＵＦＪ銀行
「義援金口座の開設（振込手数料免除）」

ヤフー
「ウェブを通じたクリック募金紹介の協力」

組織力によるサポート

フィリピン日本人商工会議所
「フィリピン国内における情報共有」

マニラ日本人会
「フィリピン国内における情報共有」

日本商工会議所
「フィリピン日本人商工会議所への仲介」

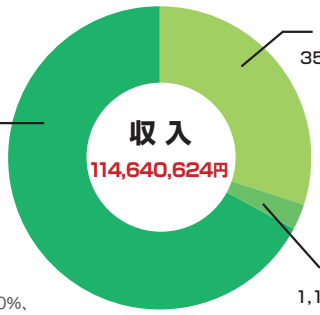
日本経済団体連合会
「日本経団連 1% クラブニュースを通じた義援金呼びかけ」

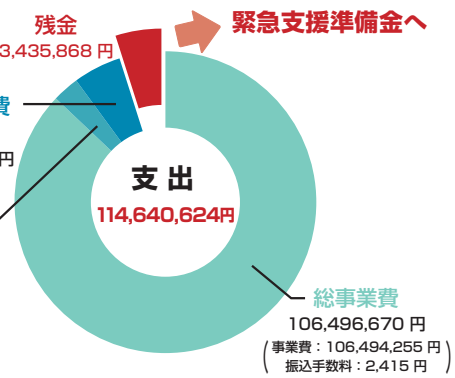
50 音順

事業期		団体名	事業名	実施期間	財源	当初予算額
初動	調査	AAR	マニラ首都圏およびカラバルソン地方における台風16号被災者緊急支援のための初動調査及び物資供与事業	始期: 2009年10月8日 終期: 2009年11月2日	民間	¥4,998,823
		HuMA	フィリピン水害被災者支援のための初動調査	始期: 2009年10月4日 終期: 2009年10月8日	政府	¥1,160,206
		ICA	フィリピン台風による被災者の初動調査及び物資配布	始期: 2009年10月21日 終期: 2009年11月10日	政府	¥4,789,840
		JAFS	初動調査及び生活物資配布事業	始期: 2009年10月3日 終期: 2009年10月22日	政府	¥5,000,000
	対応	ADRA	ラグナ州ビニャン町における緊急物資配布事業	始期: 2009年10月3日 終期: 2009年11月2日	政府	¥4,995,426
		CF	フィリピン大規模洪水被害に対する緊急物資配布支援	始期: 2009年10月15日 終期: 2009年11月9日	政府	¥4,900,000
		HuMA	フィリピン水害被災者に対する医療支援	始期: 2009年10月9日 終期: 2009年10月30日	民間	¥3,829,000
		KnK	バゴンシーラン地区における被災者への物資配給および青少年保護事業	始期: 2009年10月9日 終期: 2009年11月3日	民間	¥4,980,479
			小計:8事業		政府 民間	¥34,653,774 ¥20,845,472 ¥13,808,302
緊急		AAR	マニラ首都圏およびカラバルソン地方における台風16号被災者への物資供与事業	始期: 2009年11月5日 終期: 2009年12月18日	政府	¥11,274,290
		ADRA	ラグナ州ビニャン町における緊急物資配布事業Ⅱ	始期: 2009年10月29日 終期: 2009年11月28日	政府	¥10,016,077
		ICA	フィリピン水害被災者緊急支援事業	始期: 2009年12月7日 終期: 2010年1月6日	政府 民間	¥12,732,560 ¥1,888,000
		JAFS	リサール州における水害復興支援事業 ★	始期: 2010年3月4日	政府	¥21,979,400
		KnK	バゴンシーラン地区における被災した青少年への物資供与および心理社会的ケア	始期: 2009年12月1日 終期: 2010年1月2日	民間	¥11,974,197
			小計:5事業		政府 民間	¥69,864,524 ¥56,002,327 ¥13,862,197
モニタリング		JPF	モニタリングおよび事業実施報告書作成事業	始期: 2009年12月8日 始期: 2010年3月29日	政府 民間	¥1,048,297 ¥927,660
			小計:1事業		政府 民間	¥1,975,957 ¥1,048,297 ¥927,660
			合計:14事業		政府 民間	¥106,494,255 ¥77,896,096 ¥28,598,159

※ 現在実施中の事業があるため、当初予算額のみ掲載。
※ ★の事業は現在実施中（2010 年 4 月終了予定）。
※ 事業名については、契約書記載のものとします。

収支報告※1
（2010年2月末時点）





※1 収支報告は2月末時点の金額であり、最終会計報告は全事業終了後、JPFウェブサイトにて掲載致します。
※2 事業運営費として企業・団体寄付の10%、個人寄付の15%を繰り入れています。

ジャパン・プラットフォーム(JPF)とは、NGO、経済界、政府が協働して、市民社会と共に日本発の国際人道支援に取り組むための団体です。

JPF は日本国内においても、広報活動をはじめとして国際人道支援を活性化するためのさまざまな活動に取り組んでいます。

広報活動
一般の人々にJPFの活動を知っていただくために国内での広報活動に力を入れている(写真はグローバルフェスタJAPAN2009での一コマ)

研究会の開催
大阪大学「共生人道支援」研究班と連携し「心理社会的ケア」研究会を開催

企業との連携
野村グループの社内チャリティコンサートにて、寄付金のご支援を頂戴

2000年の発足以降、31の国や地域で、総額110億円による503の支援事業を実施してきました。

2010 年 2 月現在

ジャパン・プラットフォームの日々の運営を支えてくださっている皆様です。この場を借りて、深く御礼申し上げます。

賛助会員／一般寄付

ジャパン・プラットフォームの主旨に賛同し、運営をバックアップしてくださる企業・団体の皆様です。
総会での議決権はございませんが、日々の活動に関する提言や情報の提供を通じて運営にご参加いただいております。

●賛助会員

アサヒビール
アシックス
伊藤忠商事
エイアンドエフ
オムロン
オリックス

花王
キッコーマン
キヤノン

新日本石油
鈴与
スターツコーポレーション
スターツ首都圏千曲会
住友商事
ソニー
ソフトバンクテレコム
損保ジャパン

大和証券グループ本社
武田薬品工業
武富士
立山科学工業
ダンアンドブラッドストリート TSR
帝人
電子公告調査
東芝

日本エマージェンシーアシスタンス
日本たばこ産業
日本郵船

バリュープランニング
日立プラントテクノロジー
ひろしま国際センター
富士通
ブリヂストン
文化工房

三井住友海上
三井物産
三菱金曜会
三菱財団
三菱地所
モノノフ

リンクレア
ロート製薬

●一般寄付

味の素
SMK
王子製紙

企業研究会

住友化学
住友生命保険
全日本空輸
ソニー吹奏楽団（チャリティーコンサート）
損保ジャパン

大同生命
電子公告調査
東京電力
東陽
東レ
ドクターシーラボ
トヨタ自動車
鳥居薬品

日清紡ホールディングス
日本通運
日本ペイント
日本労働組合総連合会
野村ホールディングス

博報堂 DY ホールディングス
パナソニック
日立製作所
ファイザー

モノノフ

矢崎総業
ヤフーボランティア
ユーエスシー

リコー

賛助会費

団体：　1口 50,000 円（1口以上）
個人：　1口 5,000 円（1口以上）

※詳細は事務局までお問い合わせください。

このほかにも多くの個人の方々からご支援を頂戴致しており、心より御礼申し上げます。皆様のお名前を掲載することができず申し訳ありませんが、今後ともご支援のほどよろしくお願い致します。

さまざまなサポート

本業を活かしたサポートにより、ジャパン・プラットフォームの運営を支えていただいております。

カプランジャパン
KDDI 財団
スターツ出版
セールスフォース・ドットコム

パブリックリソースセンター
三菱地所
三菱東京 UFJ 銀行
モノノフ

ヤフー
ユナイテッドピープル

50 音順

Flow for Philippines Typhoon Ketsana Relief Program

We provided the necessary assistance, at the right time, to the right people.

Province of Pampanga

Metro Manila

Quezon City
Caloocan City
Manila
Pasig City

Province of Rizal

Calabarzon Region

Province of Laguna

Dead	:	464 people
Missing	:	37 people
Injured	:	529 people
Affected	:	4,901,234 people

Source: National Disaster Coordinating Council (NDCC) of Philippines (Nov 12, 2009)

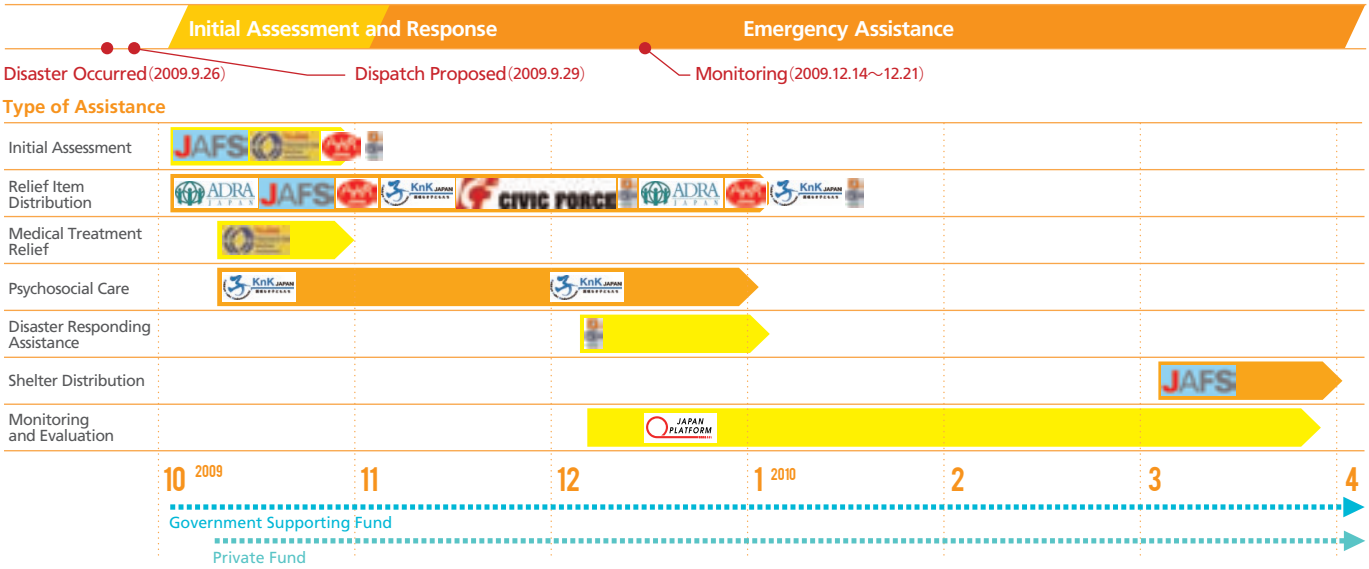
Date of Passage	:	SEP 26, 2009
Maximum Rainfall	:	410mm/24hrs
Maximum Wind Speed	:	35m/s

Source: Reuters (Sep 27, 2009)
Japan Meteorological Agency (Dec 21, 2009)

1. Initial Assessment and Response
Oct 3, 2009 ～
34,653,774 Yen

2. Emergency Assistance
Nov 3, 2009 ～
69,864,524 Yen

USD1 = 89Yen



*Projects planned to be continued through self-funding and other supporting funds after completion of the JPF program.
*Logo-marks of NGO show the project-starting period on each type of assistance. Some of the projects contain more than 2 types of assistance.

Initial Assessment and Response
A HuMA staff providing medical treatment for local residents at an elementary school utilized as shelter.
©HuMA

Emergency Assistance
A family returning home by rowboat on flooded road, after receiving relief items such as foodstuff and bedclothes.
©JPF

We provided relief utilizing the strengths of each NGO.

ADRA Japan (ADRA)

http://www.adrajpn.org/

Yuki Aida

Program Officer
Philippines flood response project

Prompt support delivered by working together with local people

Immediately after the disaster ADRA dispatched Japanese staffs to the Laguna Province which had suffered extensive damage but had not yet received any international aid. We distributed the relief items for daily living which were most needed, namely foodstuff (rice, canned fish, beans, milk, etc.) and bedclothes (blankets, mattresses and mosquito nets), to 20,000 victims.

People who received the relief items made the following comments. "The typhoon destroyed the walls and roof of my house, and my child nearly fell into the water as well. I could not sleep at all that night because I was so worried. When I received the aid coupons from ADRA, I cried tears of happiness." "ADRA were the only ones who gave me enough food. Thank you so much!"

Furthermore, 100 local students participated in the project as volunteers, saying "we want to make some kind of contribution as well rather than just receive assistance." They told us about their gratitude and emotion, saying "when we see families using the mosquito nets and sleeping with peace of mind on the mattresses that we distributed, we felt glad that we helped ADRA carry out the project."

We are grateful because the assistance from JPF enabled us to provide prompt support without spoiling the local self-help efforts.

Words of Appreciation

"Thank you for coming. Please tell everyone in Japan how much we appreciated their help." Here I can report that every day we were greeted with warm handshakes and words of appreciation from victims living in evacuation centers, victims living on the roofs of their submerged houses, and local student volunteers. We were able to complete the activities to achieve our goal of "restoring and maintaining human dignity" without any problems, and this was only made possible by everyone who gave us kindly support. I thank you all from the bottom of my heart.

Flood victims eagerly waiting for the distribution of relief items. ©ADRA

A Japanese staff distributing relief items. ©ADRA

Kokkyo naki Kodomotachi (KnK)

http://www.knk.or.jp/

Madoka Adachi

Project Coordinator
Support project for Philippines flood victims

Psychosocial care that alleviated shock of typhoon damage

We distributed foodstuff and relief items for daily living to 356 affected households in one of the largest slums in Asia, the Bagong Silang area (in Caloocan City), and provided protection to a total of 70 children and nursing mothers, etc. into evacuation facilities. Furthermore, we distributed relief items such as uniforms and school supplies to 1,113 child victims to enable them to return to school.

The area in which we provided relief has always been extremely poor but the disaster caused serious damage to the lives of the people. For example, it totally destroyed the basic infrastructure for living. However, many families and governmental authorities told us that through this relief project "the children had a safe place to live and this provided huge emotional support to their parents" and "we were able to concentrate our efforts on rebuilding."

Furthermore, psychosocial care to alleviate the shock of the typhoon damage was given to 150 child victims. This was a valuable opportunity for emotionally traumatized children to share their experiences of the disaster, have fun with other children, and open up to others about how they were feeling. We staff were extremely encouraged by seeing the children regaining their smiles day by day. I also appreciate that our local staffs and volunteers worked hard all through the project.

Words of Appreciation

I like to convey to everyone who gave us support the words of appreciation we received from the people in the slum: "Thank you for extending your help to us because we lost our jobs, our homes, everything" and "After the disaster we were completely at a loss about what to do but thanks to the assistance from Japan we were able to find the strength in ourselves to work toward reconstruction." Going forward we will continue our activities in this area to ensure that this disaster does not leave the children in an even more desperate situation. I sincerely thank you all for your support.

Giving psychosocial care to children who had evacuated to the facility. ©KnK

We provided highly nutritious meals to the children. ©KnK

BRIDGING TO THE RECOVERY

JAPAN PLATFORM

日本語 http://www.japanplatform.org

English http://www.japanplatform.org/E/

JAPAN PLATFORM

特定非営利活動法人（認定 NPO 法人）

ジャパン・プラットフォーム

〒100-0004

東京都千代田区大手町 1-6-1　大手町ビル 2 階 266 区

TEL：03-5223-8891　FAX：03-3240-6090

Approved Specified Nonprofit Corporation

JAPAN PLATFORM

Otemachi Bldg. 2F-266, 1-6-1 Otemachi Chiyoda-ku,

Tokyo 100-0004 Japan

TEL：+81-3-5223-8891　FAX：+81-3-3240-6090

編集協力：　有限会社パワーボール

デザイン：　高嶋　純子

翻　　訳：　アカデミアジャパン株式会社

印　　刷：　昭栄印刷株式会社